

【名 称】尾中の登窯

【所 在 地】丹波篠山市今田町上立杭3番地19

【指定番号】第10号

【指定年月日】令和5年3月 日

【構 造】①登り窯（竹割式登窯）

②覆い屋根

③石積基壇

【敷地面積】約400㎡

【規 模】長さ40.2m

幅 2.8m

高さ 1.1m



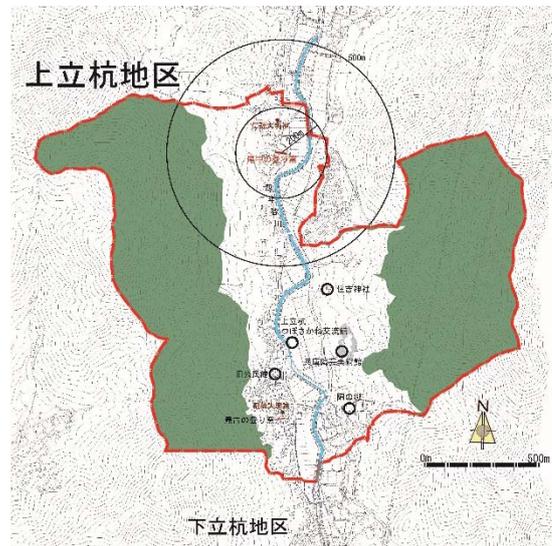
尾中の登窯

#### 【建造物の由来・沿革・特徴】

丹波焼の里として古くから陶芸が盛んな丹波篠山市今田町上立杭地区に位置する。

地区最長を誇った全長は、現在40.2メートル、燃成室は7室（袋）で構成されている。現在上立杭地区で火入れ可能な50メートル級の登窯は、「尾中の登窯」と兵庫県の有形民俗文化財に指定の「最古の登窯」の2基のみとなっており、大変希少である。

周囲の家屋景観に溶け込むように河岸段丘の地勢に沿って形成されており、歴史、文化等から見ても丹波焼の里を象徴する施設であり、生産工程を通して培ってきた経験知や技術を継承する上でも立杭に欠くことのできない建造物となっている。



位置図

#### 【指定理由】

尾中の登窯は、丹波焼の里である立杭地区の地域の歴史、文化、技術等からみて大変希少かつ貴重であり、焼きものの里には欠くことのできない伝統的な建造物である。

周囲からも望見され、地勢に沿って形成された構築物として周囲の家屋景観に溶け込む丹波焼の里である立杭の象徴的な施設であり、景観重要建造物に指定するにふさわしいと言える。